第 4 回やくの高原活性化検討会　議事録

開催日時:2025 年 1 月 30 日　14 時～16 時
開催場所:福知山市役所　夜久野支所
出席者:下表のとおり

委員

氏名	所属
日和　英之	上夜久野自治会長会代表
足立　静雄	中夜久野自治会長会代表
上田　博康	下夜久野自治会長会代表
小田垣　裕一	夜久野みらいまちづくり協議会
衣川　伸二	夜久野みらいまちづくり協議会
衣川　裕次	夜久野みらいまちづくり協議会
木村　昭興	福知山公立大学　教授
足立　聖忠	福知山観光協会　副会長
坪倉　康孝	森の京都DMO　地域開発部長兼ゼネラルプロデューサー
村尾　俊道	WILLER　TRAINS株式会社　沿線交通リデザインプロジェクトチーム （元京都府交通基盤整備推進監 NPO法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾　理事長）
泉　真吾	京都銀行　公務・地域連携部　観光・地域活性化室長
居合　真志	市民公募委員
稲垣　江利子	市民公募委員
衣川　泰広	市民公募委員
松崎　沙弥加	市民公募委員

オブザーバー

氏名	所属
森谷　信也	國土交通省近畿地方整備局　福知山河川国道事務副所長

福知山市

氏名	所属
山本　美幸	福知山市地域振興部長
森田　哲也	福知山市地域振興部理事
西野　肇	福知山市市長公室地域振興政策監
中島　美香	福知山市地域振興部夜久野支所長
井上　智行	福知山市地域振興部夜久野支所地域振興係長

京都総研コンサルティング

氏名	所属
安部　孝幸	コンサルティング事業部　地域戦略グループ　部長
山岡　佳祐	コンサルティング事業部　地域戦略グループ　マネージャー

１．活用方針等の説明

京都総研コンサルティングより、事業背景や目的、検討会のこれまでの経過、「ファームガーデンやくの」諸施設の活用方針について説明後、委員長の進行の下、質疑応答ならびに意見交換を行った。

＜委員＞

・活用方針について、D 社案を主流で進めていくことになるのか。住民の意見や要望は参考として記載されており、前回の住民提案資料はしっかりと作られていたが、これに対してはどのようにお考えなのか。住民提案資料で出てきた案については、別枠で考えないといけないのか。

＜委員長＞

・方向性を検討する中で、住民提案から出てきた意見や要望についても反映させていく。今後の公募に向けた事業者サウンディングを行うための大きな方向性として D 社案を抽出しているものであり、住民提案資料の案を別枠で捉えているものではない。

＜委員＞

・住民提案資料にもあった道の駅として高原市やトイレに対する想いなども活用方針に挙げておいた方が良いのではないか。今回の資料では D 社案に寄り添いすぎているように見受けられる。

＜委員長＞

・ご認識のとおり、道の駅としての活性化という点でも活用方針として検討していかなければならない。

＜委員＞

・今回は活用方針の大きな方向性を決めたいという認識で良いのか。

＜委員長＞

・D 社案として記載している内容については、あくまで利活用イメージ図との位置づけである。

＜京都総研コンサルティング＞

・地元住民の声を聞きながらしっかりと提案していきたい事業者にヒアリングを行っている。事業者公募のタイミングで、地元住民と対話する場を設けていくことになる。現時点では利活用イメージであり、方針としては細かくは書き込めないものと認識している。

＜委員＞
・2 月下旬の住民説明会を目指して、大きな方向性を決めていくという認識で良いか。ある程度細かいところまで決めるのか。

＜事務局＞
・今回、議論する活用方針は、「ファームガーデンやくの」（以下、当施設）を活用する民間事業者を募集していくにあたって、どのようなコンセプトで募集したいかについての大きな方向性を決めるものである。活用方針をふまえて当施設を活用できる事業者を公募していく。
・D 社案のように、様々な体験施設によって集客ができる民間事業者を募集していきたいという意味での活用方針を作っている。その中で、地元住民から出てきたトイレや高原市の改修なども含めて公募すると、手を挙げる民間事業者はいなくなってしまうため、活用方針としては官民連携の取組として記載している。

＜委員＞
・大きな方向性を決めていくものということで認識した。そのうえで、公募した際に複数の民間事業者からは手を挙げていただけそうなのか。

＜京都総研コンサルティング＞
・複数の事業者から手を挙げていただける可能性はある。最初から可能性のない事業者については記載していない。公募する際に重要となるのが、官民の負担割合であり、民間事業者がすべて負担するということになると、おそらく民間事業者から手が挙がらないと思われる。

＜委員＞
・D 社は利活用イメージに記載されている体験コンテンツをすべて網羅して実施しているのか。すべてではない場合でも、体験コンテンツの実施にあたってどれ位の本気度なのか。

＜京都総研コンサルティング＞
・D 社は既に幅広く、各地域で事業を展開されている。事業者側としては、例えば農園については、一から事業者が始めるのではなく、地元住民や当施設周辺の農園とどのように連携できるかを立体的に行うイメージである。
・漆や農園などは貴重な地域財産であるので、事業者側は地元住民と一緒に作りあげていきたいという想いである。そば打ちなどの体験は複数の地域ですでに実施されているので、実現可能性は十分にある。

＜委員＞
・D 社案は体験村であり、目的地化しているアイデアが多いが、平日の稼働やマネタイズはどのようになるのかが分からない。住民提案でもあった世界一綺麗なトイレは遠回りしてでも利用する人がいるのではないかというインパクトがあった。目的地化に向けたアイデアと立ち寄り地としてのアイデアでは意味が異なるので、目的地化のアイデアに偏らずに両方生かせたら良いのではないか。また、D 社案は土日・祝だけの営業を想定されているのか。

＜京都総研コンサルティング＞
・利活用イメージ図に記載しているとおり、D 社もトイレや高原市の改修は、恒常的に人が訪れられるようにするためには産直・直売所は重要との認識しており、他地域でも手掛けている。官民連携による機能拡充は必要との考えを持っている事業者である。
・体験施設の部分が目立ってはいるが、D 社も道の駅としてどのように生かすか、直売所やトイレに関して地元住民提案と同じ目線を持っている。

＜委員＞
・道の駅としての活用も方針に盛り込んだ方が良いのではないか。
・観光協会では観光ビジョンを今年度から策定して取り組みをしているが、地域の魅力が点であっても、福知山市で検索した時に様々に表示されるなかで複数選択した時にはじめて旅につながると考えている。観光協会でもホームページで様々なイベントを紹介するなど広報部分をしっかり作る必要があるので、当施設の活用事業者が決まった際は連携していきたい。

＜京都総研コンサルティング＞
・D 社については、ある地域では DMO の運営も一緒にされているので、観光協会との連携も可能であると認識している。

＜委員＞
・ストンと腹落ちしていない部分があるが、大きな設備投資をしていくことになると思われるので、設備投資によってまちがどのように変わっていくのかを記載したうえで、どのような機能を導入すれば良いかの説明があれば分かりやすいのではないか。夜久野地域を地元住民がどのように変えていきたいかが最初にあって、変えていきたい部分に対して当施設がどのように貢献していくのかという説明があると地元住民にとって納得しやすのではないか。
・施設の活用アイデアから入っているので、活用できる可能性のある事業者が限定されてしまっていることから、進め方についての意見が出てきてしまう。前回に地元住民がこのような地域にしたいとの想いを語っていただいたのを起点にしながら、当施設があることによって地域で実現したいことがより近づく、明確になるという説明があると良い。
・当施設は地域のための施設なのか、よそ者のための施設なのかきっちりと明確にした方が

良い。地元住民が喜んで利用するというシーンがもっとあるべきかと考える。地域の人の産業や生業、暮らしが 1 歩、2 歩グレードアップしていくという絵姿、説明になれば良い。
・よそ者向けの施設として考えるのであれば、夜久野高原エリアも含めて事業者をどのように連れてくるかという議論が必要になるので、地域の人に特化した賑わい施設の方が良いのではないか。

＜委員長＞
・ご認識のとおり、地元住民にとって、どのような機能や効果をもたらすかという視点は大事である。D 社からは地域向けの活用アイデアを聞いているか。

＜京都総研コンサルティング＞
・地元住民提案の中で、子育て世代が何度も来たくなる施設という意見があり、目線として子どもを含めた親子・3 世代を意識されていた。D社は事業の継続性という観点で地域外からも訪れてもらえる施設にすることは、家族連れも訪れるとの考えである。
・これまでの検討会でも担い手、プレイヤーがいるかという話が出ていたが、D社については社員が移住し自らが担い手となってやっていくモデルを全国でされている。D社からは移住して地域のメンバーになろうという想いを持っていると聞いている。

＜委員＞
・D社案は地元住民がどのように利用できるかと考えた時に、ほとんど使える施設がない。観光施設として間接的に地域にお金が落ちるようになるのかもしれないが、行ってみようということにはつながらない。
・官民連携の箇所で、市のインセンティブ的な表現を検討会のまとめとして入れといた方が良いのではないか。

＜委員長＞
・市のインセンティブについては、具体的にはどのようなことを指しておられるのか。お聞かせください。

＜委員＞
・具体的に記載する必要はないが、市が初期投資やランニングコストに対して、お金を出す、税金関係等のインセンティブ与える旨を盛り込んだ方が良いのではないか。

＜委員長＞
・インセンティブについて盛り込んでいくことは難しいが、官民連携の部分でトイレの改修に関しては市でしか行えない部分もあると考える。

＜委員＞
・地域での雇用、地域で働ける施設が必要と考える。当施設が地元住民も利用したい思える施設になることで、地域の魅力が変わっていくと考える。
・検討会は事業者の選定を行う、事業者を提言して市に決めていただくものなのか。

＜事務局＞
・本検討会は、当施設についてどのような形の活用をしてほしいかの方向性を決めるものであり、事業者を選定するものではない。
・公募の際に事業者に手を挙げていただかないと、前に進まないので京都総研コンサルティングに手を挙げる可能性のある事業者にヒアリングいただき、ヒアリングをふまえた活用方向性を提示している。方向性を選んでいただき、事務局で公募に向けた手続きを進めていく。

＜委員＞
・前回、住民の要望を取りまとめたものをプレゼンさせていただいたが、D社案のイメージにつなげていくための検討会のように見えてしまう。大きな方向性を決めるとあるが、具体的には何を指すのか。

＜事務局＞
・当施設に様々な体験プログラムを創出できる施設としての活用を図るものである。バーベキューなど例として記載されているものについては、事業者に体験型施設としてどのようなことをしていただけるのかを指している。
・地元住民の意見・要望についても可能な限り取り入れることを公募する際の条件として挙げることとして考えている。トイレや高原市の改修など、住民要望の実現の仕方については、手を挙げる事業者がすべて負担するのは難しいので、官民連携での提案をいただくイメージである。

＜委員＞
・活用方針（1）の部分が細かく記載されすぎているために、D社案に誘導しているのではという風に見えてしまう。
・活用方針 1 行目の体験型施設について、域外から来る人にとっての表現であり、地元住民は体験型施設とはおそらく言わないだろう。一方で、完全に地元住民向け施設として公募した場合、どの事業者も手を挙げないので、妥協点を作る必要がある。例えば地元住民も利用できる体験型施設といった表現にするなど見せ方の工夫が必要である。
・（1）には細かく記載があるのに対して（2）にはほとんど言及されていないので、前回の地元住民提案の内容に対する反応がないように見えてしまう。

・今後、事業者に活用方針を提示し公募する際に、地元住民の意見・要望のすべては無理でも、複数または特にこだわりのある部分は実現することを条件にすると、事業者側も提案しやすくなる。例えば夜久野の名前が絶対必要であるとか、福知山市のビジョンに合わせてほしいなど優先順位について議論できれば良い。
・事業者側からすれば、地元住民の協力がなければ上手く行かない。何をしてもらえるのかといった情報がたくさんある方が、事業者側は提案がしやすくなる。

＜委員長＞
・今回提示した活用方針に、地元住民の意見・要望をふまえてブラッシュアップしながら、事業者がどのような活用ができるかを考えていく必要がある。

＜委員＞
・夜久野として何らかの賑わいがほしい。夜久野にはこんな施設があると胸をはれる施設があれば心にゆとりが持てる。夜久野町には子どもがいない。今年度の出生者は1人。ただし、福知山市内全域で考えれば、どこかに安心して子どもが遊べる施設が必要だし、それが夜久野にあると良い。
・移住者がなぜ夜久野を選ぶのか、大自然や景色が良い、空気が綺麗などでやりたいこと、農業したりしている。中途半端な都会であり、田舎なのにすべてが揃っているから移住してくるのではないか。ちょっとハイカラな施設がほしい。
・D 社案に地元住民の意見を取り入れていけば、そうした施設につながるのではないかと考える。

＜委員＞
・体験型施設の子どもの遊び場など記載されているが、夜久野地域は少子高齢化が進んでいるので、健康増進など地元の高齢者に対する施設についても、追加していただきたい。そのような施設があると雇用も生まれる。高齢者の方にも目を向けていただきたい。

＜委員＞
・目玉になるカフェや飲食店があると、誰か連れて一緒に行きやすい。

＜委員＞
・官民の負担割合についてもある程度提示した方が良いのではないか。これまでもボイラーのランニングコストがかかるので断念した事業者もいると聞いている。トイレの改修を事業者負担にするのが難しいのであれば、官としてどの程度まで負担できるのか提示した方が事業者側にとっても提案しやすくなるのではないか。
・どの程度まで寄り添うかを事業者が決定してからでないと決められないのか、事前に提示で

きるものなのか教えていただきたい。

＜事務局＞
・方向性が決まったときに改めて、事業者にサウンディングを行い検討していくこととなる。

＜委員＞
・公募に持っていく前にサウンディングを行うとの認識で良いのか。サウンディングの際には地元住民は入れないのか。

＜事務局＞
・ご認識のとおりである。公募前に事業者にサウンディングを行うが、サウンディングは行政が担う部分である（地元住民は入れない）。

＜委員＞
・サウンディング時に、事業者からトイレや高原市の改修どちらもできないとなり、検討会で出てきた意見や地元住民の要望が飛んでいってしまわないか不安である。しっかりと検討会の内容をふまえてサウンディングしていってほしい。

＜事務局＞
・地元住民の要望を可能な限り取り入れることを条件であることを事業者に伝えたうえで、サウンディングしていく。

＜委員長＞
・現時点ではコンセプトが曖昧な部分もあり、できるだけ検討会の意見を反映させて方向性を定めていく。

＜委員＞
・持続する施設を作っていく必要がある。人が集まることは大切で、集まることによって波及効果が生まれて、周辺で商売や起業してみようという動きにつながり、雇用が生まれればベストだと考える。
・これまでの漆や和菓子作りなどの体験型施設にはたくさん人が来ているイメージがないが、D社案は採算が取れるとお考えなのか。

＜京都総研コンサルティング＞
・体験型施設は持続的に運営するとなると、コンテンツの入れ替えなど変わっていかなければならない。一方で、D社からは全天候型遊具は収益化しやすいのでハード整備をすれば良

いとの意見があった。あわせて地域の美味しいものや農業、料理を作る体験はコンテンツの入れ替えができるので、時代に合わせて変えていくことができる。
・全天候型遊具については、トレンドとして、気温上昇や雨の日でもキャンセルしなくても良い、屋根のある施設が求められている。コンテンツを入れ替えつつ持続可能な運営を目指していくものと認識している。

＜委員＞
・活用方針は最終的にどのような書き方になるのか。
・この活用方針で収益がでるのか。先にトイレの改修などがあり、付随して活用方針があるように思われる。

＜事務局＞
・公募の際に手を挙げる事業者は長期的に事業できる事業者を選定していく。また、当該施設で収益を挙げられないと考える事業者は手を挙げてこない。

＜委員＞
・キッチンカーなどのイベントは結構人が集まるようなので、先にトイレや高原市を改修することによって、イベントなどで土日祝に収益を挙げようとする提案につながるのではないか。

＜事務局＞
・先にトイレや高原市を整備して、公募で手を挙げる事業者がいないということもありうるので、民間事業者と対応をしながら進めていく。まずは、持続可能な提案ができる事業者を発掘して、その事業者と一緒になって考える方法で進めていきたい。

＜委員長＞
・先にトイレや高原市を整備した方が事業者は事業をしやすいというケースもあるので、民間事業者にサウンディングしながら進めていく形となる。
・官民連携の視点、施設を活用しないことには雇用が生まれない、健康増進などのご意見もふまえながら活用方針を検討していくことなる。

＜委員＞
・当施設の中に道の駅施設があるので、駐車場やトイレ、情報提供施設の整備について国の交付金があるのでぜひ活用いただきたい。また、新たな交付金として第 2 世代交付金があるので、活用要件はあるがご相談いただきたい。
・行政として何ができるかを示したうえでないと、事業者側もどこまで提案すれば良いか分からないので、行政の方でどこまで施設整備を行うのか考えていただいた方が良い。

・目指す姿・ビジョンの実現のためには、人をどう呼び込むかについて前回議論していた。子どもが来れば親や祖父母も訪れることとなるので、子どもを呼ぶというところから考えていった方が良いのではないか。また、高齢者のための施設、健康増進施設があればもっとリピーターの獲得につながると思われる。

＜委員＞
・活用方針（1）が具体的に記載されすぎていて、そこに引っ張られてしまう。多様な体験型施設と記載すると、域外から人を呼び込み体験してもらうための施設を作るようにみえる。例えば当施設を軸とした体験型地域とすれば、夜久野の文化と自然を体験するための軸になる。地域の方が体験してもらって食材を当施設に持ち寄り調理する場になれば可能性が広がる。当施設だけで体験型施設として完結するのか、夜久野高原の地域として体験を目的地化、寄り道化するのかとのニュアンスが活用方針に盛り込めないか。
・活用方針（1）が具体的に書き過ぎているのでよそ者向けに見える。

＜事務局＞
・夜久野地域全体を体験型施設として記載すると、事業者は手を挙げられないので、当施設持続可能な運営ができる事業者を募集する。ただ、事業者が実際に運営していくなかで市や地元住民と一緒になって様々な体験を創出することは求めることはできる。

＜委員＞
・活用方針（3）の書きぶりとして、当施設で完結するのではなく、体験をテーマに周辺施設にも相乗効果をもたらす形にしてはどうか。

＜委員長＞
・当施設で完結するのか、また夜久野高原として完結するのかという話がある中で、地元と協力いただきながら相乗効果を広げていく展開の仕方もあるかもしれない。

＜事務局＞
・活用方針（3）についてより具体的に書くことは可能であるが、現時点ではどのような提案があるか分からないので、相乗効果を発揮するという努力目標的な表現にとどめている。具体的にどのような施設になり、どのようなことができるのか見えてから、地域全体で人が回遊し賑わいをもたらす方法を考えていく。
・現在は、民間事業者の提案を受けて、反映しながら最終的に公募して活用事業者を選定していくので、現時点では活用方針（3）について具体的に書くのは難しい。

＜委員＞

・この観点はダメ、この観点は地元として考えてほしい、大事であるとの意見を出して、事業者側がどのような知恵を出してくるのかが重要。
・公募する際に、地元住民が利用できること、地元住民の利用という観点で考えてくださいとすれば、応募される側のイメージも違ってくる。
・そもそも、地元として事業者に来てほしいのかどうか。今までのやり方では行き詰まっていた。地元住民の要望を全部聞くだけというのは事業はできないので、どこかの事業者に進出していただきその力を使いながら、夜久野のまちを活気づける。
・この観点はダメ、この言葉は入れてほしいといったまとめになると事業者側からも提案が出やすい。
・民間事業者なので当然稼がないといけないが、事業者に対して域外からの集客だけのビジネスで良いのか、このような活用であれば地元住民もこれだけ利用する、こういうこともしてほしい、みんなで利用して盛り上げようという姿勢が示せれば事業者側も提案しやすい。

＜委員長＞
・地元も含めた地域内外の利用を促進しなければ、長期的なビジョンは実現できない。事業者のアイデアを含めて、地元住民が利用することも前提であることを示した方が良い。

＜委員＞
・活用方針（1）に諸施設の活用例から始まることに違和感がある。さらりと地域に根差した様々な体験プログラムの創出とした方が良い。
・地元住民の利用、地元雇用につながる施設との表現が合っても良い。市としても事業者にとっても過度な負担にならない文言を盛り込んだ方が良い。

＜委員＞
・諸施設を多様な体験型施設としてとあるが、全ての施設を体験型施設にしないといけないように見える。体験型施設を含むといった書き方にしてはどうか。

＜委員長＞
・いただいた意見を参考にしながら、活用方針案に反映、修正していく。
・事業者に手を挙げていただける形にするため、取りまとめについては事務局に一任いただきたい。
・温泉水については何らかの形で活用する方向にできないかと考えている。そのうえで最終的なビジョンや方向性について、雇用創出など地域を含めながら検討していきたい。

＜委員＞
・2 月末週の住民説明会の際に、住民が納得いかない人がでてくるのではないか。温泉復活

ニーズは多いので、なぜ無理なのか明確な説明が必要。
・もう一度活性化していくうえでの、こういうことをしてくれるから、この地域は盛り上がっていくというのが分かる資料がないと、地元住民は納得しないのではないか。

＜委員長＞
・今回は配布資料をたたき台として、議論いただいた。事業者を公募する際にはもう少しコンセプトや方針を生かしながら進めていく形になる。資料 7 頁についてはイメージ図にすぎないので、どのように生かして魅力を発信していくかはこれから作り込んでいく。
・今まで着手できていなかったことに問題意識を持って、市と事業者が一緒になってスタートするための一つのきっかけになる。また、活用方針がないと市の予算がつけられない。

＜委員長＞
・今回は、委員の皆様から提示された活用方針に地元住民の利用や地域の雇用創出など、今後の活用方針の取りまとめに向けて、有意義な意見をいただけた。

2. その他

・事務局より、第5回会議（3 月 26 日（水）15 時より夜久野支所にて開催）の案内。